

取り組み項目に関する委員からの意見一覧

方向性	第二次計画で記載されていたこと (第三次計画の方向性に当てはめた場合)	第三次計画で入れてほしいこと (「こんなふうに記載されているとよい」と考えることなど)
地域環境 (地域での連携、普及・啓発、理解など)	○特別支援教育の啓発活動の充実 ○保健・福祉部門等と教育部の連携 ○支援継続ツール(就学支援シート等)の検討 ○特別支援教育マネジメントチームの体制整備	① 例:学校・保護者への周知方法の工夫
学校環境 (管理職や特別支援教育コーディネーター、校内委員会の活動など)	○校内委員会の活用 ○学校生活支援シート・個別指導計画の作成と活用	② 例:特別支援教育コーディネーター研修の充実
学級環境 (教室環境、児童・生徒や保護者の相互理解など)	○派遣相談の充実	③ 例:教室・授業のユニバーサルデザイン化の推進
指導方法 (学級指導の工夫など)	○教員の専門性の向上 ○特別支援教育実践事例集の作成	④ 例:誰もが活用しやすい特別支援に関する事例の提供
その他(どこに当てはまるかわからないもの、ご意見、感想等)		
⑤		

意見一覧

①

- ・多摩市内の都立特別支援学校のセンター的機能の活用と発揮
- ・学校と外部機関の連携について、教員も保護者も見やすい一覧表やマニュアルが誰でも見られるようになっているとありがたいです。
(子供のことを相談したい時に、まずどこに連絡すればよいかなど、いざとなったときに初めて外部機関を探すとなると難しいです)
- ・学校・保護者への理解を高める工夫
- ・特別支援教育の啓発活動の充実
- ・学校・保護者への周知方法の工夫
- ・体制は整ってきたと思うので、地域や学校、保護者への周知やそれらを生かしていく手立てが入るとよい。
- ・やはり啓発活動の充実と保健・福祉部門との連携は必要かと思います。
- ・子どもと保護者が取り残されることなく、地域社会の一員として地域の人に見守られ配慮を受けることができるように、引き続き子ども青少年部や健康福祉部と教育部が連携した取組があるといいと思いました。
- ・保健・福祉、教育部門の連携の工夫
- ・特別支援教育を推進するための組織力の強化
(例えば、特別支援教育マネジメントチームの業務について、リーダーシップを取り指導育成の視点で進行管理できる担当)
- ・特別支援教育に関連した講演会の実施

②

- ・各組織連携の重要性
- ・校内研修の更なる推進
- ・校内委員会の活用および、特別支援教育コーディネーター研修の充実
- ・学校生活支援シート・個別指導計画の作成と活用についての研修の充実
- ・就学・転学相談についてのマネジメントチームとの連携の充実
- ・特別支援教育コーディネーターをやっていて、上記の内容を、管理職とコーディネーターしか知らないことが多いので、学校の全教職員が知る機会があるとよいと思います。
- ・学校(特に教員)で、特別支援教室(通級)での学びの理解と合理的配慮の理解を求める。
- ・学校生活支援シートのわかりやすい内容での作成と学校内での充実活用
- ・特別支援教育コーディネーター研修の充実
- ・管理職・特別支援教育コーディネーターと担任やその他学校職員との情報共有と連携の強化
- ・学校と特別支援教室専門員や巡回臨床心理士の方との連携が入るとよい。
- ・学校生活支援シートや個別指導計画の作成の手順などが示されていることを入れてあるとよい。
- ・近年の個別案件の傾向からも教育委員会などの市側が学校側をフォローする趣旨が求められるかと思います。
- ・子どもと保護者、担任の負担が大きくなってしまったため、引き続き必要に応じて知識と経験のあるコーディネーターが介入をして、必要なマネジメントができるといいと思いました。
- ・各学校において、特別支援教育のかかわる業務の明確化(生活指導部等と業務整理し、特別支援教育に特化した役割を持つ担当)
- ・管理職研修の充実
- ・特別支援教育(精神疾患を含む)に関するリーダー育成(市内での特別支援教育を推進できる人材の育成)
- ・上級学校等との連携強化(個別指導計画等の有効活用)
- ・通常学級での特別支援教育への理解の促進のための研修実施

- ・授業等の教育活動の公開による地域や保護者の方々への理解啓発
- ・特別支援学級の児童数の増加に伴う施設面での充実。人的配置の充実
- ・児童の特性や実態を把握した教室・授業のユニバーサルデザイン化の推進(合理的配慮の観点も含む。児童の動線を大切に)
- ・学校(特に生徒)で、毎年、特別支援教室(通級)での学び(どんな勉強をしているか)を見学や体験してもらい、合理的配慮の理解を求める。
(通う子供達に対し、偏見のない形で生活を送れるような環境作りをしたい。1年生の時には学ぶ機会がある学校もあるようですが、その後見学や体験は無いとのこと。偏見等の発言は中・高学年で耳にすることがある為、低学年はもちろん、色々わかり感じて発言が始まる中高学年までも毎年継続して特別支援教育・教室の見学や体験をしてもらい理解を深めたい)
- ・教室・授業でのユニバーサルデザイン化の推進から充実へ
- ・教室環境、授業の進め方などのユニバーサルデザイン化の推進について入るとよい。
- ・ユニバーサルデザイン(半ばハード的に話)が可能な範囲でできると良いと思います。
あとは学校での理解啓発(相互理解)も記載できるとよいと思います。
- ・インクルーシブな学級環境のひとつとして、訪問看護師等を派遣するなどして学校を支援することにより、医療的ケア児が学校に通える体制づくりがあるとよいと思いました。
また、グループディスカッションでの高校生の声から、自己肯定感を育むことの大切さや教育の果たす役割の大きさを感じたため、引き続き子どもが自己肯定感をもって希望する将来を描いていけるような環境が大事だと思いました。
- ・全ての児童・生徒が安心して過ごせる学級環境の見直し(ユニバーサルデザイン)
- ・授業において「自立活動」の視点の導入(心理的安全性の確保を含む)
- ・巡回相談の保護者へのフィードバックの充実(巡回相談時の授業の保護者参観)

③

④

- ・日常的な相談体制の確立
- ・教員の専門性の向上
- ・通常学級と特別支援学級の交流及び共同学習の充実
- ・誰もが活用しやすい特別支援に関する事例の提供
- ・先生方誰もが活用しやすい特別支援に関する事例と対処法の資料提供
- ・教室環境、授業の進め方などのユニバーサルデザイン化の推進について、具体的な事例の提供
- ・特別支援教育実践事例集など、マニュアル的なもので支援するというのが一つポイントかと思います。
ここも教育委員会等が支援していく姿勢を記載できるとよいのではないのでしょうか。
- ・特に日々子どもに接している教員が与える影響は大きいことから、子どもの権利を中心に考え、合理的配慮に取り組むことが
当たり前となるには、「個別指導計画・学校生活支援シート」に加えて、「日野スタンダード」のような仕組みもあると気づく機会に
なっていると思いました。
- ・教育委員会内の指導者の育成（教育効果を高める、「指導のねらい、内容、方法、評価」の蓄積と各学校への情報提供）
- ・異校種間の人事交流の活性化
- ・実践事例の効果検証の仕組みづくり

⑤

- ・大人だけではなく子供の中でも特別支援教育について、理解を得られていないと感じることがあります。小学校に上がるまでの子供達は偏見等はなく、個の人間をありのまま当たり前を受け入れ、一緒に生活しています。しかし、小学校に入ると、そのままの子と偏見的な発言をし始める子と分かれてきます。ぜひ、近い将来的には後者のような変化がなく、幼少期の時期のように、個の人間として当たり前の生活が送れる環境づくりを希望したいと思っています。
 - ・合理的配慮を申し出たり、相談する保護者が今後増えてくると思います。その際の合理的配慮の進め方や確認チェックシートなど、教員の力量や意識で変わるのではなく、学校で取り組んでいけるように、引き継いで行けるものがあると思います。
 - ・学校生活支援シートについて、作成や活用にあまり効果を感じられずにいます。シートの活用方法や内容の検討ができたらよいと思います。
 - ・②と関わりますが、以前、学校生活支援シートと個別指導計画の作成手順や Q&A がありました。現在もそれは生きていますか？個別指導計画は、新しい作成例と作成のポイントが示されたものがあると思います。このようなものがあると、初めて作成する教員やコーディネーターにとって大変参考になり、よいと思います。
 - ・副籍制度の一層の理解啓発
 - ・医療（児童思春期精神科）との連携（都立小児医療センター、駒木野病院等との連携）し、人材育成を目的とした研修等の実施
 - ・特別支援教育についての専門家との連携（大学等の有効活用）、継続的な研究（共同研究者）
 - ・特別支援教育の対象となる児童・生徒一人一人の自己実現までには相当な時間がかかります。もちろん義務教育段階で完結するものではありません。
- 多摩市における特別支援教育に携わるすべての方が、特別支援教育の対象となる児童・生徒は時間をかけながら、ゆっくりと成長を果たしていくこと（課題を先送りにするというだけでなく）を理解していただき、「つながり」を大切にしながら、その上で「包み込む」特別支援教育を進めていただきたい。